

奥村土牛記念美術館

当美術館は、現代日本画壇の最高峰にいた奥村土牛画伯の素描を収蔵した美術館です。

画伯は、第二次大戦中から戦後にかけて四年間、当八千穂村に疎開され、黒沢会館の離れに住まわれておりました。昭和60年の秋、黒沢合名会社より「黒沢会館を八千穂村の文化事業の施設として提供する」と申し出があり、これが契機で当村と深いつながりを持つ奥村土牛美術館の設立が思いたたれました。幸いにも画伯の御高志にすがることができ、長年秘蔵されていた作品が寄贈され、奥村土牛記念美術館が誕生いたしました。

これらの作品は、高潔で至純な土牛芸術の心髄に迫るに欠くべからざる作品です。

当美術館は、男性的な山岳美で知られる八ヶ岳と、なだらかに裾野をひく女性的な蓼科山からなる八ヶ岳中信高原固定公園をひかえた地にあり、美しい自然にかこまれ、土牛芸術を鑑賞するには最も適した環境にあります。

ごゆっくりご鑑賞ください。



穂積 昭和25年(1950)



葛蒲 昭和51年(1976)



文楽 やぐらお七 昭和55年(1980)

奥村土牛記念美術館